

子ども議員 任命式が行われました！

～緊張と期待の中、いよいよ活動がスタート～

2025年7月27日(日)

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.1



令和7年度の子ども県議会が開幕しました。県内各地から選ばれた小学4年生から中学3年生までの40名の子ども議員が、滋賀県庁に集まり任命式に臨みました。

緊張のスタート



会場には緊張した表情が並びましたが、自己紹介のアイスブレイクを通じて徐々に笑顔が増え、温かい雰囲気が広がっていきました。これから1年間一緒に活動するメンバーでの交流をしました。

子ども県議会の説明やサポーター紹介

子ども県議会の仕組みや活動の目的、サポーターの役割などについて職員やサポーターから説明が行われました。子どもたちは真剣に耳を傾け、午後の任命式に向けてリハーサルにも取り組みました。初めての場に戸惑いながらも、一人ひとりが「子ども議員」としての自覚を少しずつ深めていく姿が見られました。



昨年まで子ども議員を
されていたサポーターさん
も誕生！

昨年まで子ども議員をされていた方が、今年高校生になられて、サポーターになってくれました！他にも高校生サポーターが増えて、頼もしい限りです！



身が引き締まる、任命式

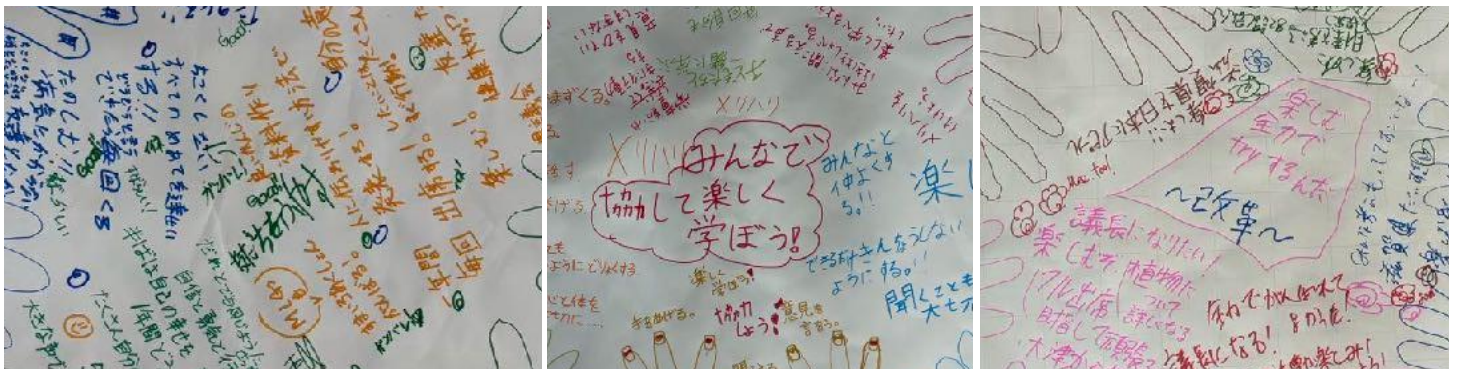
午後の任命式では、三日月知事から一人ひとりに任命書が手渡されました。子どもたちは背筋を伸ばし、しっかりと返事をして任命書を受け取りました。知事からは「これからの滋賀をつくっていく大切な仲間として期待しています」との言葉が贈られました。



みんなで初グループワーク

任命式後には「もし自分が知事だったら、どんなことをする？」をテーマとした初めてのグループワークをしました。子どもたちはグループごとに意見を出し合い、「こんな滋賀にしたい」という未来像を話し合いました。ユニークで前向きな提案が次々と飛び出し、聴いていた大人たちも思わず笑顔になる場面が多く見られました。とても和やかな雰囲気に笑顔もたくさん!

最後に意気込みを書いてもらいました!



最後のふりかえりでは、「友達を増やしたい」「滋賀をもっと良くしたい」「子ども議員として1年間頑張りたい」といった意気込みが子どもたちから発表されました。緊張の中にも確かな決意が感じられ、これからの活動に期待が高まる時間となりました。次回は8月31日に県庁で初めての学習会に臨みます。公文書館の人のお話を聞いたり、これから活動する仲間とチームビルディングに挑みます。

公文書館に行きました！

～初めての学習会を開催しました！～

2025年8月31日(日)

滋賀県

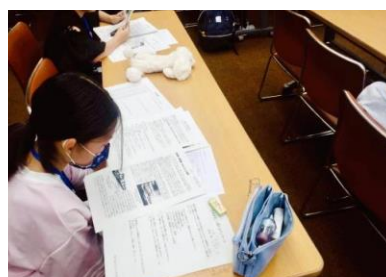
子ども県議会

事務局発行 / No.2



7月27日の任命式を終え、子ども県議会の新しいメンバーたちが、いよいよ最初の活動日を迎えました。午前中は、**滋賀県公文書館**を訪れ、小谷審議員さんと担当の大月さんから滋賀県の歴史や県史編さん事業についてお話を伺いました。

滋賀県の県史編さんの歴史を聞く



実際の資料や映像を見ながら、公文書がどのように保存され、未来へと受け継がれていくのかを学んだ子どもたちは、「**滋賀の歴史をもっと知りたい**」と目を輝かせていました。公文書館で滋賀県の歴史を学び、「**自分の住む県のことをもっと知りたい**」「**歴史を残すことの大切さを感じた**」との声が多くありました。実際に県史編さんの

話を聞くことで、滋賀が歩んできた歴史や文化への関心が高まり、「初めて知ることが多くておもしろかった」「大切な記録を未来に伝える仕事に感動した」といった感想も聞かれました。



お昼からはチームビルディングに挑戦!



午後のレクリエーションでは、初めて会う人とも自然に打ち解け、「いろいろな人と話せてうれしかった」「思っていたより意見交換が楽しかった」といった声が多く寄せられました。「グループの人の名前を覚えられてうれしかった」「次も協力して活動したい」「笑いながら話せて、みんな優しかった」など、チームでの温かい関係づくりが印象的でした。

みんなでエントリー時のテーマでも話をしました!

最後のグループワークでは、まちづくり・環境・農業・平和・学校や子どもなことなど、関心のあるテーマに分かれて話し合いました。

「平和について意見を交換できてよかった」「農業でもいろんな考え方があることに気づいた」「学校のことをもっと良くしたいと思った」など、それぞれの分野で自分の思いやアイデアを言葉にする時間となりました。



子どもたちの次に向けての意気込み

「次の活動では、もっといろいろな人の意見を聞いて自分の主張を磨きたい」
「地域体験活動がとても楽しみ」「その日の目的と自分の目標を立てて取り組みたい」といった前向きな声も多く、これからの活動への意欲が伝わってきました。全体を通して、子どもたちは「学ぶ・話す・つながる」ことの楽しさを実感し、自分たちの言葉で滋賀の未来を考える一歩を踏み出しました。

平和祈念館と大風会館訪問

～平和を学び、伝統を学ぶ～

2025年9月7日(日)

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.3



地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。1回目の地域体験活動では、東近江市にある平和祈念館と大風会館を訪れました。

吉田さんが語ってくださった“あの日”のこと

先日、子どもたちは東近江市で戦争を経験された吉田 ^{よしだ} ^{たけし} 武司さん(1941年生まれ)から、当時のお話を直接伺いました。実際に戦争を体験した方からお話を聞く機会は年々少なくなっており、とても貴重な学びの時間となりました。

吉田さんは、1945年7月24日、国民学校1年生のときに八日市飛行場を狙った空襲に遭われました。4年生のお兄さんは帰らぬ人となりました。吉田さん自身も歩けないほどの重傷で、顔はすすで真っ黒になり、水も飲めず、濡れたタオルで唇を湿らせながら救護を受けたといいます。お話の中には、夜は灯りが漏れると空襲の標的になるため、ほんの小さな灯りだけで食事をしてきたことなど、常に恐怖と隣り合わせであったことが語られました。

吉田さんは、当時の状況を語りながら、今も残る傷跡を子どもたちに見せ、「戦争は絶対にしてはいけない」と伝えてくださいました。その言葉には、実際に戦争を生き抜いた人にしか語れない重さがあり、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。



子どもたちが感じた、平和の尊さ

また、展示を見たり、平和祈念館の川副さんのお話を聞く中で原爆の試験として“パンキン爆弾”が落とされたこと、戦争によって多くの命や日常が奪われたことなどを学びました。展示資料や写真を見ながら、子どもたちは「戦争は遠い場所の出来事ではなく、この滋賀でも起きていたことなんだ」と実感している様子でした。

見学後の子どもたちからは、「戦争の怖さを忘れてはいけないと思った」「話し合いで解決できる社会をつくりたい」「戦争が始まったら止められないから、始めないことが大切」などの声があがりました。また、戦争の記憶を語り継ぐ人が少なくなる今、自分たちがしっかり学び、次の世代につないでいくことの大切さも感じていました。

目の前に広がる“100畳の迫力”に圧倒されました



子どもたちはまず、畳100畳分、約11.8m×11.1mの大凧を実際に目にし、その圧倒的なスケールに驚いていました。本体だけで約200kg、ロープなどを含めると700kg近くになる重さに、「こんな大きなものが本当に空に上がるの？」という疑問とともに、飛ばす人たちが命がけで凧を揚げてきたという話に大きな衝撃を受けたようです。大凧は単なる遊びではなく、地域の誇りと覚悟が詰まった文化であることを、子どもたちは強く感じていました。

技術と工夫が詰まった“伝統のものづくり”に感動しました

大凧会館の鳥居さんより説明を受ける中で、大凧づくりには約1ヶ月という短期間で600人もの人に関わることを、和紙を切り抜いて模様をつくる「切り抜き工法」や、巻いて運べる独自の構造など、驚くほどの工夫が詰まっていることを学びました。動物の絵と漢字を組み合わせる「はんじもん」、裏に貼られる願い札など、大凧には一つひとつに物語や願いが込められています。子どもたちは“デザインにちゃんと意味があること”、“かわいいキャラ凧も実は深い意図があること”に気づき、ただ眺めるだけではわからない伝統技術の魅力を肌で感じていました。



伝統をつなぐことへの思いと、地域への関心が深まりました

東近江の大凧が江戸時代から続く長い歴史を持つこと、近江の人々が競い合うように大凧を大きくしてきた背景などを知り、子どもたちは「伝統を守り続けることの大変さ」と「それでも続けてきた地域の力」を感じ取っていました。「新しいことを取り入れることも大事だけれど、伝統を受け継ぐことの方がもっと大切だと思った」「たくさんの方が関わっていることに驚いた」といった声も多く、地域文化への理解と、自分たちがその一部であるという実感が深まったようです。今回の見学は、地域に息づく文化を次の世代へどうつないでいくかを考える、貴重な体験となりました。



地域体験活動にご協力いただきました皆さまへ

今回の平和学習は、戦争の事実を知るだけでなく、自分の言葉で平和を考える大切な時間となりました。また、大凧会館では地域の伝統や人々の思いに触れ、多くの学びを得ました。ご協力いただいた吉田さん、平和祈念館の皆さま、大凧会館の皆さまに心より感謝申し上げます。

地域体験活動②

- 木のぬくもりと地域の熱さ感じる -

～2025年9月23日 活動報告～

滋賀県

子ども県議会

事務局発行/No.4



地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。2回目の地域体験活動では、野洲市にある「しがモック」と草津市にある「キラリエ」を訪れました。

びわ湖材ってなんだろう？

びわ湖材流通推進課の西井さんから「滋賀県の約2分の1が森林で占められている」というお話がありました。その豊かな森林資源をどのように活かし、次の世代へつないでいくかが滋賀県の大きな課題であると教えていただきました。また、県のシンボルツリーであるモミジは、四季の変化とともに美しく色づき、木の生命力と滋賀の自然の豊かさを象徴していることも紹介されました。

子どもたちは、木が単なる「素材」ではなく、人々の暮らしと文化を支える存在であることを実感しました。施設内では木育の理念が随所に感じられます。裸足で歩ける木の床、地形をモチーフにした遊具、県内産の木で作られた温かみのあるおもちゃなど、木のぬくもりに包まれながら学べる環境が整備されています。職員の方々は、「木に触れることで、子どもたちが自然を身近に感じてほしい」と語っておられました。



オープンしたての「しがモック」に特別入場!

その後、子どもたちは8月にオープンしたばかりの、野洲市の近江富士花緑公園内にある「しがモック」へ。「しがモック」は滋賀県産の木材「びわ湖材」を活用し、“暮らし・森・琵琶湖・人・世代をつなぐ”という理念のもとに誕生した木育（もくいく）拠点です。実際に木に触れ、香りや感触を確かめながらさまざまな遊びを楽しみました。館内には、木で作られたおままごとのような遊び道具や、秘密基地のように隠れられる空間、木の滑り台、積み木コーナーなどがあり、子どもたちは自由に手を動かしながら、木のぬくもりを全身で感じ取っていました。



温泉はないけど、熱い人たちで沸いている草津市さんへ



草津市役所の織田さんからは、子ども・若者の意見をまちづくりに生かすための草津市の取り組みについて紹介がありました。子どもたちは「まちの中には子どもや若者の声を聞いてくれる人がいる」ということを知り、教えていただきました。具体的な取り組みについては、NPO法人くさつ未来プロジェクトの野口さんよりご紹介していただき、続いて、草津市コミュニティ事業団の中村さんからは、地域の人・お店・行政をつなぎながら活動を支える“中間支援”という仕組みについて教えていただきました。

草津市では、防災やイベント、若者の挑戦など、「地域の人がやりたいこと」を応援する活動が広がっています。地域での活動や子どもたちとの関わりを通して、「人と人とのつながりがまちを元気にする」「小さな行動でも地域を変えるきっかけになる」というお話を聞き、「私たちに何が出来るのか」考えながら聞いている様子もありました。

みんなで“まちづくり”について考える！

お話を聞いたのちに、「すごろく大会を開いて、地域の人と交流したい！」「スイッチ大会をして、全く知らない人とも楽しくつながりたい！」など“遊びながら人とつながる”という思いがこめられていました。また、「SNSで活動を広めたい」「年齢に関係なく参加できる居場所をつくりたい」など、地域の中で世代を超えて関われる仕組みについても意見が出ていました。子どもたちは、“地域の人と出会うきっかけを自分たちでつくりたい”という気持ちを大切にしながら、「どうしたら関わりが生まれるか」「みんなが楽しめる場にするには」と、目的をもって考えていました。まさしく、今回のお話のテーマ“まちづくりと市民協働”へとつながる入り口を体験できました。



地域体験活動にご協力いただきました皆さまへ

今回の地域体験活動を通して「木を使うことが森を育てることにつながる」という森林の循環の大切さを学びました。滋賀県の約半分を占める森林の恵みを守り活かしていく人々の努力を知ったことは、子どもたちにとって大きな発見となりました。また、まちづくりや地域社会に目を向けるきっかけにもなりました。これまで“遊び”や“イベント”として考えていたことが、「地域の人とつながる」「誰かの役に立つ」「まちをよりよくする」という視点から捉えられるようになり、「自分たちにもできることがある」「地域の人と一緒に行動してみたい」という気持ちが育っています。ご協力いただいた西井さん、織田さん、野口さん、中村さんに心より感謝申し上げます。



みんなで出した！滋賀の未来アイデア

～第2回学習会 活動報告～

2025年10月4日

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.5



この日は、子どもたちが「滋賀県の課題」について自分たちの考えを出し合い、関心のあるテーマを選んでグループをつくる活動を行いました。付箋を使って意見を整理したり、模造紙にまとめたりしながら、それぞれの視点から滋賀県の未来を考える時間となりました。

学年ごとに「滋賀県の課題」を出し合う

この日はまず、各学年ごとに分かれて「滋賀県の課題」について意見を出し合いました。

「人口減少」「交通の便」「環境保全」「地域のつながり」など、子どもたちから多様なテーマがあり、滋賀県の現状を自分たちの視点で出し合う時間となりました。



付箋を使って意見を整理し、模造紙にまとめる

出し合った意見を付箋に書いて模造紙に貼りながら整理しました。似ている意見をまとめたり、異なる考えを比べたりして、「みんなの意見を聞いてテーマが決まってよかった」「共感や反論をしながらより良い考えにできた」と、話し合いを通してお互いの考えを深める姿が見られました。「思っていたアイデアは意外とうまくいかなかったけど、違う意味でいけた」という感想もあり、意見を形にしていく難しさと面白さを体験したようです。

テーマを絞り各チームで話し合う

話し合いを重ねる中で、「環境」「防災」「働き方」「図書館」「観光」など、それぞれの関心をもとにしたテーマが見えてきました。「びわ湖の課題をみんなで考えて、意見を出し合った」「動物と人間の共生について考えた」「交通について便を増やすなどの案が出た」「スポーツや平和について意見を深めた」どのチームも、滋賀をもっと良くするための方向性を自分たちの言葉で整理していました。



次回に向けて

次回はいよいよ、今回決まったグループやテーマをもとに提案文の作成に入ります。今回の活動を通して少しずつ課題の方向性が見え始め、「次は意見を一つにまとめたい」「もっと詳しく調べたい」といった声も聞かれました。今後は、調べ学習や話し合いを通して内容を深めながら、一人ひとりの意見をつなげていく段階に入っていきます。

提案文作りスタート!みんなの意見を形に

～第3回学習会活動報告～

2025年10月13日

滋賀県

子ども県議会

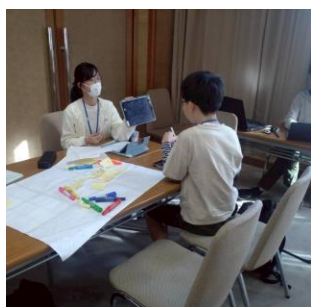
事務局発行/No.6



今日は、前回決めたテーマをもとに、いよいよ提案文を完成に近づける作業を行いました。子どもたちは事前にテーマについて調べ学習をしており、その成果を持ち寄って、話し合いながら文章を作り、足りていない部分はパソコンなどで調べることが中心でした。

提案文づくり本格的にスタート

グループごとに分かれ、家で調べた資料をもとに、「何を伝えたいのか」「どんな順番で書けば分かりやすいか」を相談しました。それぞれのチームが、自分たちの言葉で滋賀の課題や解決策を整理し、お互いに確認し合いながら文章を作り上げていく様子が印象的でした。



話し合いとまとめの難しさを感じる

ほとんどのグループが、話し合いを通して意見をまとめることに苦戦していました。考え方の違いから話がすれ違ったり、構成を決めるのに時間がかかったりと、思うように進まない場面も多く見られました。中には、「自分の言っていることがうまく伝えられなかった」「情報が多すぎて頭の中がぐちゃぐちゃになった」と感じる子もいました。それでも、「もっと意見をはっきり言えるようになりたい」「次は整理して伝えられるようにしたい」と前向きにふり返る姿がありました。今回の活動は、提案文を完成させるというより、自分たちの考えをどのように形にしていけるかを探る段階としての意味合いが強く、難しさの中にも学びと成長が見られた一日でした。



次回に向けて

次回はいよいよ、提案文の完成と発表準備に向けた最終段階に入ります。今回の学習では、内容をまとめる難しさを感じながらも、少しずつ「伝えるための言葉」を考える姿勢が生まれていました。今後は、もう少し意見を出しやすい雰囲気づくりや相手の意見を尊重し、聞く姿勢も大切にして取り組んでもらえたらと思います。

今回は、滋賀の未来を見据えた提案文がどのように完成するのか、楽しみです。

提案文づくり進行中！

～第4回学習会 活動報告～

2025年10月19日

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.7



提案文づくりが大きく前進しました！

子ども議員たちはこの日、次の本番に向けて提案文づくりに集中して取り組みました。これまで別々に進めていたグループが合流する場面もあり、最初は戸惑いも見られましたが、意見を共有するうちに理解が深まり、少しずつスムーズに作業が進行しました。「まとめ方が難しかったけれど、最後は書きやすくなった」「途中からスルスル進んだ」など、子どもたちの中からは成長を実感する声が多く聞かれました。



提案文づくりが本格化！

子どもたちは、自分たちの体験や調べたことを踏まえて、滋賀の未来をより良くするための提案内容を言葉にしていきました。「まだ足りないところがあるので、持ち帰って完成させたい」「より現実的で不安の少ない提案にしたい」「自分が書く部分のイメージが固まった」「みんなにすごいと思ってもらえる提案文にしたい」といった内容の精度を上げるため、根拠を調べ直したり、アンケート結果を見直したりと、地道な作業にも向き合いました。防災、働き方、観光、通信制学校、児童館、スポーツイベントなど、各チームのテーマは多様。それぞれの切り口で、地域の未来に必要なアイデアを磨いています。



話協力しながら、より良い文章へ

仲間と意見を出し合い、時には修正しながら、一つの提案文を作り上げていく姿が印象的でした。「意見が混ざって難しかったけど、最後は話しやすくなった」「いろんな人に助けてもらった」「お友達の意見も反映できてよかった」自分の考えだけでなく、他者の意見を取り入れ、説得力のある文章を目指す姿勢が光りました。子どもたちは次回に向け、明確な目標を掲げています。

- ・次で完成させる！
- ・より説得力のある内容にする
- ・絵や資料も仕上げたい（びわこ戦隊チームの声）
- ・本番で自信を持って提案できるようにする

という声からは、全力で取り組んだ充実感が伝わってきました。次回は提案文の完成と発表に向け、さらに磨きをかける時間となります。

提案文づくり進行中！

～第5回学習会 活動報告～

2025年11月8日

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.8



提案文を仕上げるために話し合いを重ね、午後は「平和」をテーマに子ども宣言を考えました。意見が合わずに悩む場面もありましたが、互いの考えを伝え合うことで少しずつ形にしていきました。最後には自分たちの言葉がまとまり、達成感や新しい気づきが生まれた1日でした。



提案文づくりラストスパート！

発表に向けて、提案文を分かりやすくまとめる班や、模造紙と色ペンでポスターを作成する班など、それぞれのグループで工夫しながら取り組んでいました。グラフや図を取り入れながら「見る人に伝わる資料」を意識して作業する姿が多く見られました。「みんなと意見を出し合えて楽しかった」「ギリギリまで粘って完成させた」といった声もあり、限られた時間の中で仕上げようとする真剣さが伝わってきました。

午後からは「子ども宣言作り」

午後からは、子ども県議会全体で「子ども宣言」づくりに取り組みました。まず、各学年で「平和になるために大切だと思うこと」を話し合い、自分たちなりの考えをまとめました。その後、全体で集まり、出てきた意見を共有しながら一つの宣言にしていきました。子どもたちからは「いろんな意見が出てよかった」「宣言文を書くのは難しかったけど、書き出すとスラスラ書けた」という振り返りがあり、話し合うことで自分の考えの広がり気付いた子どももいました。



次回に向けて…

振り返りでは、「中学生全員で話し合うことが大変」「意見が噛み合わない不安があった」という声が多くありました。その一方で、「なんとかまとまって安心した」「みんなの意見が聞いて面白かった」という感想も目立ちました。次回は、いよいよ発表本番に向けた仕上げの時間になります。話す順番や伝え方を確認しながら、「本番が楽しみ」「緊張せず頑張りたい」という前向きな声も多く聞かれました。次回までに、ポスターの見せ方や声の大きさ、聞き手に伝わりやすい表現を意識して準備していきます。本番に向けて、今よりもう一段階レベルアップを目指してがんばりましょう。

子ども県議会に向けて

～リハーサル 活動報告～

2025年12月7日

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.9



昨日のリハーサルでは、当日の進行に向けて、全体の流れと役割分担の最終確認を行いました。まず、全体の進行役となる議長を決定し、子ども県議会全体の雰囲気づくりや当日の動きについて共有しました。また、前回の話し合いで決めていた「子ども宣言」を読む代表者について、読み方や立ち位置、発表の順番を再確認しました。提案文チームでも、発表する位置（登壇場所や並び順）を中心に、実際の動きを想定しながら流れを確認しました。誰がどこに立つのか、どの場面で話し始めるかなど、細かい点も含めて調整し、当日スムーズに発表できるよう準備を進めました。全体として、子どもたちが自分の役割に自信を持ち、安心して当日を迎えられるようリハーサルになりました。



自分で決める力を育む

議長選出では、立候補した子どもたちが真剣に話し合いました。意見を交わしながら一人を決めていきました。選ばれた子、選ばれなかった子、どちらの表情にも本気で取り組んだ時間が感じられました。悔しさや喜びを仲間と共有する姿に、互いを尊重する気持ちが表れていました。最後は、子ども議員全員に、議長の承認をもらいました。

伝え合いからより良い発表へ

リハーサルでは、通しリハを行いました。初めての作法や動作に戸惑いながらも、各チームがこれまで頑張って作ってきた提案文を読み上げ練習しました。「声が小さい」「もっとハキハキ」「音読になっている」「気持ちを込めて」とまわりから言われていました。リハーサル後に、各チーム同士で良かった点や改善したい点を自由に出し合う姿が印象的でした。提案文の内容だけでなく、子どもたち自身の工夫が深まり、より良くなっていきました。



次回に向けて…

本番で提案するみなさんに、大切にしてほしいポイントがあります。「堂々と立つ・動く」「大きな声でハキハキ伝える」「気持ちを込めて話す」「最後まで言い切る」自分の思いが言葉に乗ると、聞く人の心にまっすぐ届きます。これまで、みなさんが自分の意見を持ち、仲間と協力してより良い提案を形にしていく姿が見られました。本番では、自信を持って届けてくれることを期待しています。みんなで自分らしく、最後までやりきろう！

子ども県議会

2025年12月25日(水)

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.10



今年度の子ども議員40名は、7月27日（日）に三日月知事から子ども議員に任命されてから、2回の地域体験活動と6回の学習会を重ね、広い視野で滋賀県について考えてきました。自分自身のことだけでなく、周囲の人々、びわ湖の環境、そして滋賀の未来について真剣に向き合い、子ども議員同士で意見を交換してきました。

その集大成として、令和7年12月25日に滋賀県議会議場において、子ども県議会を開催し、滋賀県をより良くするための10の提案や「子ども宣言」の発表を行いました。歴史ある県議会議場で、子ども議員たちはそれぞれの役割を果たし、堂々と発言する姿が見られました。

滋賀県議会から来賓としてお迎えした議長および教育・子ども若者常任委員会委員長のご挨拶

滋賀をより良くするための新しい発見や提案が生まれることを期待している。将来の滋賀県、そして日本を担うのは皆さんであり、「安心して暮らせる滋賀」「生まれて・住んでよかったと思える滋賀」をどうつくるかを、社会の一員として真剣に考えてほしいと思います。

滋賀県議会 目片信悟議長



今日は皆さんドキドキワクワクしていると思いますが、大きな声でゆっくりとはっきりと発表していただきたいと思います。頑張ってください。

教育・子ども若者常任委員会
赤井康彦委員長



子どもたちが選んだ、 3人の子ども議長が進行を務めました！



セリフにつまった所があったけど…
「よかったよ」と言ってもらえました。

川上 大和さん



緊張とワクワクで思ったりよりも早く終わって、達成感と寂しい感じがありました。

柴垣 咲里さん



経験したことがない緊張した中で、議長を務めさせていただいて、これまでにない貴重な経験となりました。

山口 珠咲百さん

子どもたちはそれぞれの提案を堂々と行い、 三日月知事をはじめ、県の職員から答弁をいただきました！



1 これからの学校生活をより良いものにするために



岸本 副知事 答弁



2 誰もが安心して快適に過ごせる避難所のある滋賀県へ



園田 知事公室長 答弁



3 スポーツで市町の壁を越えて、つながるきっかけを
～Excitingびわスポ～



中村 文化スポーツ部長 答弁



4 滋賀県の環境を守る計画
～環境問題を身近に感じよう～



中村 琵琶湖環境部長 答弁



5 子どもが本当に行きたい放課後の居場所
『子ども秘密基地』をつくりたい！



奥山 子ども若者部長 答弁



6 滋賀県の特産品を活かした魅力発信プロジェクト



岡田 商工観光労働部長 答弁



7 滋賀の公共交通の利便性をあげるために



伊吹 土木交通部長 答弁



8 ハローブック
～みんなが本を読んでハッピーになれる滋賀県へ～



村井 教育長 答弁



9 挑戦しやすい環境づくりによって希望あふれる滋賀県へ



松田 総合企画部長 答弁



10 子育てと仕事の両立を応援する県庁
～いい仕事で環境でハッピーな滋賀へ～



三日月 知事 答弁



子ども宣言



子ども宣言採択



令和7年度 子ども県議会 子ども宣言(概要)

- ①戦後80年の平和の誓い
- ②魅力見つかる滋賀へ
- ③地域の人との交流が絶えない滋賀へ
- ④いじめのない滋賀へ
- ⑤ゴミが少ない滋賀県へ

三日月知事からメッセージ

7月27日の任命式の時に3つの「み」を大切にしてくださいと言いました。身の回りのこと、みんなのこと、未来のことを考えられる議員さんになっていただければと投げかけました。今日のご質問やご提案、動作、最後の子ども宣言を見て、私がお願いした呼びかけたメッセージそれぞれに体现しているなど思い、とても嬉しく心強く思いました。やっぱりみんなの力はすごいと思えました。みんなが調査して、議論して作って、とっても説得力のある提案や質問をして頂いたからだと思い、感服しました。ここで答弁して終わりではなく、これからも滋賀県の様々な取組に参画してくれたら嬉しいと思います。



子ども県議会

ふりかえり交流会

2026年2月8日(日)

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.11



令和8年2月8日に「ふりかえり交流会」を開催しました。この交流会は、子ども県議会後の取り組み状況や提案内容について、自由に意見交換を行うことを目的としています。午前の部では、子ども議員だけで久しぶりの再会を喜び合い、子ども県議会後に取り組んできたことや、今後挑戦したいことについて語り合いました。また、本年度は「ふりかえり交流会」の運営も司会や受付なども子ども議員が行いました。

午後の部では、県の職員も加わり、子ども県議会での提案内容や、それを踏まえてさらに深めた考えについて意見交換を行いました。子ども議員にとっては、子ども県議会で伝えきれなかった思いや考えを県の職員に直接伝える貴重な機会となりました。一方、県の職員にとっても、子どもたちの率直な意見を聞くことで、提案内容への理解を深める有意義な場となりました。

はじまる前に!



午前中は、自分たちの提案文などを振り返り、お昼からどんな話をするかみんなで話し合いました。



司会や挨拶・受付などの役割を誰がするか、子どもたち自身で決めてもらいました。

県庁職員さんをお招きして、意見交換スタート!



午後の意見交換会のはじまりの会では、進行やはじめの言葉も午前中に子どもたちが決めた子ども議員が行いました。10名の県庁職員さんがきてくださいました。みんなちょっと緊張しています。



子ども県議会当日に答弁いただいた岸本副知事、村井教育長をはじめ、出席者から一人ずつ自己紹介。普段している仕事の内容を丁寧に教えていただきました。



1回目は「教育/図書館」「防災/公共交通」「スポーツ/特産品・魅力」「環境」「挑戦/居場所/働き方」の5つのグループに分かれて子ども県議会で質問したことなどについて、2回目は「平和」「観光・魅力・伝統・文化」「地域・まちづくり」「教育・子ども・学校・居場所」「環境」の5つのグループに分かれ、「子ども宣言」について意見交換を行いました。



子どもたちも県庁職員もとても真剣に、時折和やかに「どういう思いで作ったのか」「なんでそんなことを考えたのか」を話しました。また、子どもたちから見える課題や、県庁職員から現状や課題を共有し、みんなで話し合いました。



「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」大会のメダルに触れる機会をいただき、子どもたちも選手気分でした！



最後に、岸本副知事から、お言葉をいただきました！

意見の対立は自然なことです。意見の対立を恐れたり、嫌だからと諦めたりせず、違いを認めようすれば異なる意見の人たちと学校生活や社会で仲良くできるかを考えましょう。皆さんのご提案を参考に、より住みやすい滋賀県を目指します。ありがとうございました。

子どもたちの感想より

自分も聞きたいことを聞けたり、県庁職員さんから直接聞いたりできてよかったです。

滋賀県のことを考えて話し合うことって、とっても楽しいんだなって気づけました！

本番で聞けなかったことも聞けて、疑問がスッキリした。

実際に県庁の人と話して、提案したことが実現すればいいなと思いました。

議会本番のときに話したよりも緊張感がなく、話せてよかった。

たくさんの県庁の方から、答弁よりもさらに詳しく話を聞いてうれしかった！

最後は…

子どもたち・県庁職員さんと一緒に集合写真を撮りました。

今年の活動はこれで最後！

ふりかえり交流会で、今年度の子ども議員の活動は終了しました。これまでの活動を通じて考えたことや学んだことを大切に、よりよい滋賀県にするために、共に考え行動してくれることを期待しています。

